

月例研究会講演要旨

特許に潜む落とし穴

—特許出願の成功と失敗・体験と実例を通して—

ZERO 研

大森 弘一郎

日時	平成 28 年 3 月 31 日 (木) ----- 18 : 00 ~ 19 : 30
場所	日本技術士会会議室
	葺手第二ビル 5 階 ((フキデダイニビル) 東京 : 田中山ビルの隣)
演題	特許に潜む落とし穴
講師	Zero 研 大森 弘一郎氏
	技術士 (当会会員)

内容

発想は難しい。特許を取ることは易しい。特許を成功させることは難しい。私の成功と失敗を実例にして解説します。今後のお仕事で、特許戦略を有効に進めるためのヒントになることを願って体験を通してお伝えします。

特許は、あるクレーム内の独占実施権です。新規技術を公開する代償として、独占実施権をもらえる。ただし、出願から 20 年間です。

公開する新規技術が具体的に大きく、求める権利がその中で小さいほど成立しやすい。新しいことは言った瞬間に古くなるのです。公開したものは公知となり、自・他を縛ります。

弁理士と権利者と発明者の成功は違います。

勉強の手段は？

開発の方法は？

ニーズのそばに発明はあります。

では、どうすれば良いか、これをお話しします。

自分を信じて発明を疑う。調べて従わない。こんなお話を体験と実例を通してお話したいと思います。

特許の成功とは

- レベル 1 — 特許と友達になる
- レベル 2 — 願書を書く
- レベル 3 — 出願する
- レベル 4 — 審査が通り成立する。
- レベル 5 — 特許料が入る
- レベル 6 — 仕事で役立つ
- レベル 7 — 仕事が成立する。
- レベル 8 — 仕事が成功する
- レベル 9 — 会社が成立する。

特許の勉強法 — 他人の明細書をよく読む。
技術分野に関係なくわかる様になるものです。

特許の落とし穴 守秘と公知 初めての体験 方向正し届かない いくらでも 催眠は役立つ HOPACの夢 見事な発明 死の谷と生物
 特許の成功とは 現場に空 ヨコをタテに 近付いて・味をしめる 180目指して65 パトルカンの： 自分の傑作
 J-PlatPat発想法

発明と特許の流れ

シーズとニーズ

- ニーズ
 - 発想
 - 調査
 - 発想
 - 試作
 - 考案
 - プロトタイププロトタイプ
 - 明細書
 - 明細書
 - 高度に新しい内容
 - 正しく表現
 - 頭が冷えてからさらに考える
 - 加える
 - 権利が早くほしいはず
 - 面談の結論で補正

1年1年半3年 (同じ日)

